

## 1 カリキュラム・ポリシー

- 芸術教育学科のカリキュラムは、芸術教育学科の学位授与の方針に基づき、次の方針に従って編成している。

### 教育課程の編成

- ① 音楽教育および美術・工芸教育に関する分野の体系化と構造化、及び順次性が明確化されている。
- ② 知識体系に関する基礎教育を重視し、分野を横断できる能力を育成する。
- ③ 生涯を通じた持続的な就業力や自己教育力を育成する。
- ④ 豊かな人間性と公共性や倫理性を育成する。
- ⑤ 感性教育を基礎力として育成する。
- ⑥ 諸団体や地域との連携・協力を強化し、社会の改善に関与できる能力を育成する。

### 教育課程の実施

- ① 多様な教育方法を用いて学生の主体的、能動的な学びを引き出す。
- ② ディスカッションや協働して取り組む学修など双方向性を確保した教育を実施する。
- ③ 学修内容を確実に修得できるように、学修支援体制を柔軟に実施する。
- ④ 情報通信ネットワーク（ICT）を活用し、柔軟な教育方法を展開する。
- ⑤ 学修ポートフォリオを導入し学習過程や成果を指導に活用する。
- ⑥ 専門教育と関連付けて、日本語および外国語コミュニケーション能力の向上を図る。
- ⑦ 本気で学ぶ力、社会で通用する力が身につくように、指導と厳格な成績評価をおこなう。

- 学修の分野ごとの標準的な学修の内容は後述する「履修モデル」によって示されています（p.188～189参照）。

## 2 卒業要件

芸術教育学科では、以下の5つの条件を卒業要件として定めています。

(1) 修業年限を満たすこと

(2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること

(3) 卒業時の累積GPAが2.00以上であること

(4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること

〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」  
「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」

〈必修選択科目〉 人文科学科目群：音楽コース必修科目：「音楽史」および「音楽理論」  
美術・工芸コース必修科目：「美術史」および「美術理論」

(5) 学科科目について、次の必修科目を修得していること（音楽コース、美術・工芸コース共通）

〈必修科目〉 「芸術教育概論」「芸術教育研究Ⅰ」「芸術教育研究Ⅱ」「芸術教育研究Ⅲ」

### 3 履修上の留意事項

- 「芸術教育研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」は、理論と実技を合わせた芸術教育研究を行います。これらの科目を履修するためには、2年次終了時のガイダンスに出席し、学科で定めた専門分野の中から自分の希望する分野を選択します。

### 4 取得可能な免許および資格

- 芸術教育学科では、所定の科目の単位を修得し、また所定の条件を満たすことで、次の免許あるいは資格を取得することができます。

#### ■教育職員免許状

##### ■音楽コース：

中学校教諭1種免許状（音楽）および高等学校教諭1種免許状（音楽）

##### ■美術・工芸コース：

中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（工芸）

##### ■音楽コース、美術・工芸コース共通

中学校もしくは中・高等学校の教員免許と併せて、小学校教諭2種免許状の取得が可能です。別途ガイダンスがありますので、取得希望者は必ず出席してください。

\*詳細は「教職課程受講ガイド」で必ず確認してください。

#### ■学芸員

本履修ガイドp.230～231の「学芸員」を参照してください。

#### ■その他の資格および修了証

本履修ガイドp.221の「取得できる各種資格・修了証一覧」を参照してください。

\*複数の免許・資格・修了証の同時取得については、可能なものとそうでないものがあります。詳細は随時行われるガイダンスの内容を参照してください。

### 5 教職課程受講継続条件

- 芸術教育学科では、教職課程の受講継続に際して次の条件を定めています。この条件を満たすことができない場合は、教職課程を継続して受講することはできません。\*1

学 年	学 期	受講継続条件	実 習
1年次	春	4月中に実施される「教職ガイダンス」を受けること	・参観実習
	秋	終了時（全科目）の累積GPAが2.30以上あること 終了時に学科が定めた教職適性判定試験（実技・面接を含む）に合格していること	
2年次	春	—	・介護等体験
	秋	終了時（全科目）の累積GPAが2.30以上あること 終了時に学科が定めた教職適性判定試験（実技・面接を含む）に合格していること	
3年次	春	—	・教育実習（中・高） *2
	秋	終了時（全科目）のGPAが累積2.30以上あること	
4年次	春	—	・教育実習（小） *3
	秋	—	

\*1 その他教職課程受講に関する詳しい内容は、別冊「教職課程受講ガイド」にて確認してください。

\*2 「教育実習（中・高）」を履修するためには、「教職概論」、「教育原理」、「学習・発達論」および「音楽科指導法（ⅠおよびⅡ）」または「美術科・工芸科指導法（ⅠおよびⅡ）」、「教育実習（事前指導）」を修得していることが必要です。

\*3 「教育実習（小）」を履修するためには、次の4つの条件を満たしていることが必要です。①教育実習（中・高）の評価が「F」でないこと、②教職課程受講継続条件を満たしていること、③「小学校特別課程履修」の科目のうち8科目16単位以上を修得済みであること、④「教育実習（小）事前指導」に合格していること。

## 6 芸術教育学科 履修モデル

- 芸術教育学科では、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従って、以下の3つの履修モデルを設定しています。各自これらの履修モデルを参考にして、必修科目（●がついたもの）を含んだ履修可能な科目の中から、自身の学修上の目標に到達するためにはどのような科目を選択すべきかを熟考したうえで履修してください。

履修モデルA：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と小学校教諭2種免許状

履修モデルB：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と高等学校1種免許状（音楽/美術/工芸）

履修モデルC：学芸員

### 履修モデルA：中学校1種（音楽/美術）・小学校2種

中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と小学校教諭2種免許状（小2免）を取得することを目的とするモデルです。義務教育課程において、小・中連携の教育が目指されています。中学校免許を取得することを前提とした、「小学校課程特別履修」が可能です。

学期	100番台科目		200～400番台科目		400番台科目	教 職		実習の流れ
	音楽	美術	音楽	美術		中・高	小2	
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 絵画基礎 彫刻基礎			教職概論 英語コミュニケーション		(事前指導)
	秋	声楽基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	デザイン基礎 工芸基礎			教育原理 日本国憲法		参観実習
2年次	春			合奏 伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 音楽科指導法Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ 彫刻Ⅰ 美術科・工芸科指導法Ⅰ		学習・発達論 教育の制度と経営	(事前指導)
	秋			合唱 鍵盤楽器Ⅱ 音楽科指導法Ⅱ	絵画Ⅱ 西洋美術史B 美術科・工芸科指導法Ⅱ		体育 教育の方法と技術（中・高） 道徳教育の理論と方法（中・高）	*小2免の履修方法に関しては、別途ガイダンスに必ず参加し、詳細を確認してください。 介護等体験
3年次	春			指揮法 作曲法 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論（美術） 芸術表現演習 工芸Ⅰ 美術科指導法Ⅰ		教育課程編成論（中・高） 教育相談の理論と方法（中・高）	(事前指導)
	秋					●芸術教育研究Ⅰ 美術科指導法Ⅱ	特別活動の理論と方法（中・高） 生徒・進路指導の理論と方法（中・高） 教育実習（中・高）	教育実習（中）
4年次	春			鑑賞教育理論（音楽）		●芸術教育研究Ⅱ		(事前指導)
	秋			日本音楽史		●芸術教育研究Ⅲ 感性教育論	教職実践演習（中・高）	教育実習（小）

## 履修モデルB：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）・高等学校1種免許状（音楽/美術/工芸）

中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と高等学校1種免許状（音楽/美術/工芸）を取得することを目的とするモデルです。履修モデルAと比較し、よりいっそうの教科専門性を高めることのできるモデルになっています。また、中・高連携の教育が目指されていますので、これに関連した科目選択となっています。

学期	100番台科目		200～400番台科目		300～400番台科目	教職	実習の流れ
	音楽	美術	音楽	美術		中・高	
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 絵画基礎 彫刻基礎			教職概論 英語コミュニケーション	(事前指導)
	秋	音楽基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	デザイン基礎 工芸基礎			教育原理 日本国憲法	参観実習
2年次	春			伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 音楽Ⅰ 音楽科指導法Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ 工芸Ⅰ 図法・製図 美術科・工芸科指導法Ⅰ	学習・発達論 教育の制度と経営	(事前指導)
	秋			合唱 鍵盤楽器Ⅱ 音楽Ⅱ 音楽科指導法Ⅱ	絵画Ⅱ 工芸Ⅱ 工芸史 美術科・工芸科指導法Ⅱ	体育 教育の方法と技術(中・高) 道徳教育の理論と方法(中・高)	介護等体験
3年次	春			音楽科指導法Ⅲ 指揮法 作曲法 合奏 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論(美術) 西洋美術史A デザインⅠ 芸術表現演習 美術科指導法Ⅰ	教育課程編成論 (中・高) 教育相談の理論と 方法(中・高)	(事前指導)
	秋			Theory and PracticeⅠ	デザインⅡ 日本美術史B	●芸術教育研究Ⅰ 感性教育論 美術科指導法Ⅱ 音楽科指導法Ⅳ	特別活動の理論と 方法(中・高) 生徒・進路指導の 理論と方法(中・高) 教育実習(中・高)
4年次	春			鑑賞教育理論(音楽) 西洋音楽史 Theory and PracticeⅡ	デザイン理論 東洋美術史 日本美術史A 彫刻Ⅰ	●芸術教育研究Ⅱ	
	秋			日本音楽史 Research and Practice	工芸理論 彫刻Ⅱ インターンシップ	●芸術教育研究Ⅲ 民族音楽概説	教職実践演習 (中・高)

## 履修モデルC：学芸員

学芸員資格を取得することを目的としたモデルです。幅広い表現活動の理解、理論的な思考の育成を目指しています。教育力や英語力が求められるため、これらを強化する科目の修得が望まれます。

学期	100番台科目		200～400番台科目		300～400番台科目	資格
	音楽	美術	音楽	美術		学芸員
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 絵画基礎 彫刻基礎 Arts Education A			
	秋	音楽基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	デザイン基礎 工芸基礎 Arts Education B			
2年次	春			伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 音楽Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ Arts Criticism	博物館概論 生涯学習概論
	秋			合唱 鍵盤楽器Ⅱ 音楽Ⅱ	絵画Ⅱ Theory and PracticeⅠ	博物館資料論 博物館教育論
3年次	春			指揮法 作曲法 合奏 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論(美術) 西洋美術史A 彫刻Ⅰ 芸術表現演習 Theory and PracticeⅡ	博物館展示論 博物館資料保存論
	秋			日本音楽史 Theory and PracticeⅠ	彫刻Ⅱ 西洋美術史B Research and Practice	●芸術教育研究Ⅰ 博物館情報・メディア論
4年次	春			鑑賞教育理論(音楽) 西洋音楽史 Theory and PracticeⅡ	デザインⅠ 日本美術史A	●芸術教育研究Ⅱ
	秋			Research and Practice	デザインⅡ 日本美術史B	●芸術教育研究Ⅲ 民族音楽概説